2021 年 1 月 27 日

2020 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

遠隔医療を用いた遺伝性腫瘍領域の遺伝カウンセリングで医療者やクライエントが受ける影響：文献レビュー

Impact of Telegenetic Counseling for Hereditary Cancer on Healthcare Providers and Clients: A Literature Review

19MN028
堀越悠里子

要旨

【目的】
遠隔医療を用いた遺伝性腫瘍領域の遺伝カウンセリングで医療者やクライエントが受ける影響を明らかにする。

【方法】
PubMed、CINAHL、PsycINFO、EMBASE の電子データベースを使用し、2010 年から2020 年までの研究論文を網羅的に検索した。特定した文献をスクリーニングし、適格性を評価して対象文献を抽出した。対象文献の引用参考文献からハンドサーチを行い、論文を追加し、対象文献を選定した。

【結果】
2010 年から 2019 年までの 20 件の文献を対象文献として選定した。そのうち 19 件が量的研究、1 件が混合研究であり、研究の実施国はアメリカ合衆国が 16 件、オーストラリア連邦が 2 件、カナダが 1 件、スウェーデン王国が 1 件であった。
対象文献で取り上げられている遠隔医療は、電話を用いたものが 15 件、インターネットを利用したテレビ通話が 5 件あり、対面遺伝カウンセリングと遠隔遺伝カウンセリングを比較したものが 16 件あった。全ての文献においてクライエントへの影響が記載されていた。また医療者への影響も言及した文献は 20 件中 1 件であった。
遠隔医療を用いた遺伝性腫瘍領域の遺伝カウンセリングで医療者やクライエントが受ける影響に関して【遺伝カウンセリング後の遺伝学的検査受検率】【遺伝学的検査受検への葛藤】【遺伝カウンセリング後のリスク低減のための行動】【遺伝カウンセリングに対する満足】【遺伝カウンセリング後のQOL】【遺伝カウンセリング後の不安】【遺伝カウンセリング後の抑うつ】【遺伝カウンセリング後のがん特有の心理的苦痛】【遺伝カウンセリング後のがんに関する知識】【満足度や検査受検率に影響を与える患者の特性】【遺伝カウンセラーが答えた電話での結果開示による利点と懸念点】【遠隔医療の利便性】【遠隔医療機器の使用による技術的課題】の 13 のカテゴリを抽出した。抽出したカテゴリから遠隔遺伝カウンセリングは、対面遺伝カウンセリングと比較すると実践において多くの側面で遜色ないという結果が得られた。

【結論】
本研究から遠隔医療技術の利用が、遺伝性腫瘍の情報を求める患者や家族にとって効率的かつ効果的に相談できる方法となり得ることが示唆された。そして、費用や利便性の側面から遠隔遺伝カウンセリングは地域差からなる医療格差の是正に繋がる可能性が示された。
一方で、遺伝カウンセリング後の遺伝学的検査受検率や遠隔機器の技術的課題など遠隔遺伝カウンセリング導入により生じる問題も示唆された。そのため現段階では遠隔遺伝カウンセリングと来院を組み合わせながら、クライエントの遺伝に関するニーズに応えるための方法として利用されることが望ましいと考える。